

特集

伝統の手もみの技を継承する 菊川市手揉保存会に聴きました

市民と議会をつなぐ特集ページです。今回は、「深蒸し茶発祥の地菊川」の手もみ茶技術を継承し、市内のみでなく、海外にまで菊川の美味しいお茶をPRされている「菊川市手揉保存会」の皆さまに聴きました。

「来なければ体験できない付加価値を求めて訪れる」とにかく、お茶を飲んで」

〈いづころから保存会が立ち上がり、何名ほどで活動していますか？〉

・昭和42年に小笠の村松平八さんが静岡県の無形文化財に選ばれたことを機に、昭和45年12月に「小笠手もみ製茶技術保存会」ができました。

・発足当時は、小笠地区45名でスタートしました。菊川地区にも保存会はあったと思います。

〈主な活動内容と体験した方の反応は？〉

・国内は関東地区、海外では台湾のお茶博覧会でも出店しています。その他、県内各地区の保存会とも交流があります。

・体験者の反応は、茶の郷ミュージアムで毎月第2・第4日曜日に体験会を実施しており、8月は定員いっぱいとなり特に好評でした。体験は20分くらいで一人300円です。お金を払ってでも手もみを体験したい子どもや若い女性の方が多いと感じます。・体験者は、県内外から来ており、コロナ禍

前には海外からも来ていました。「わざわざ来なければ体験できない」という付加価値を求めて来られています。

〈国の無形文化財への認定制度のようなものはありますか？〉

・認定制度はないと思います。80歳以上で50年以上手もみを伝承している方を「茶匠」という肩書を付けて県が認定してくれ伝承しています。

・静岡県には8流派あり、土地柄や茶質に合った揉み方を「茶匠」が継承しています。流派は「小笠流」「鳳明流」「興津流」「川根揉み切り流」「幾田流」「川上流」「青透流」「倉開流」です。

〈技術習得は、どの程度期間が必要ですか？〉

・入会后2年で「教師補」、更に3年で「教師」、それから5年で「師範」となります。試験は、筆記、実技、製品等で行う。1日



研修会の様子

かけて2人で2.5kgの茶葉を揉む工程を最低10回は行わなければ望めません。・正式名称は「静岡県茶手揉保存会認定試験」です。師範となり申請すれば、全国での師範認定も受けることができます。